

【忍野村】 校務 DX 計画

（１） 自己点検を踏まえ、チェックリストに示されている課題や、その解決策

忍野村では山梨県内で共同調達にて整備を行った統合型校務支援システムに参加し、統一（標準化）した業務運用を行うことで、教職員の異動の負担を軽減した環境を構築している。

また、ペーパーレス化の観点から各学校と教育委員会間での情報伝達は、原則グループウェアのメッセージ機能やEメールで行っており、さらに各学校からの連絡事項等についてはメール連絡網を利用しており、紙でのやり取りの低減を図っている。

教職員の業務効率化に一定の成果がでているが、紙での運用がされている業務がまだ多く残っており、更なる業務効率化のために運用上の工夫が必要である。また、個人情報扱う業務のため3層分離型の校務ネットワーク構造を構築しているが、各階層間でのファイルの受け渡し等、業務効率化の妨げとなる部分は多い。

今後、以上の課題を解決するために校務支援システムそのものの見直しや、DX化を目指すために根本的な校務ネットワーク構造の再検討・再構築が必要となる。

（２） 次世代の校務システムの導入に向けた検討について

現在、山梨県及び県内全市町村と共同し令和8年度から次期統合型校務支援システムの運用に向けシステムの仕様や運用手順等の検討を行っている。

令和8年度に3層分離型のネットワーク構造からゼロトラスト環境への再整備を予定している。